

校内研究 提案

1. 校内研究について

校内研究のおさえ

- ▶ 学校全体の課題に対して、どのような手立てを取ると良いのかを考え、実践したことを評価し、みんなと共有していく。

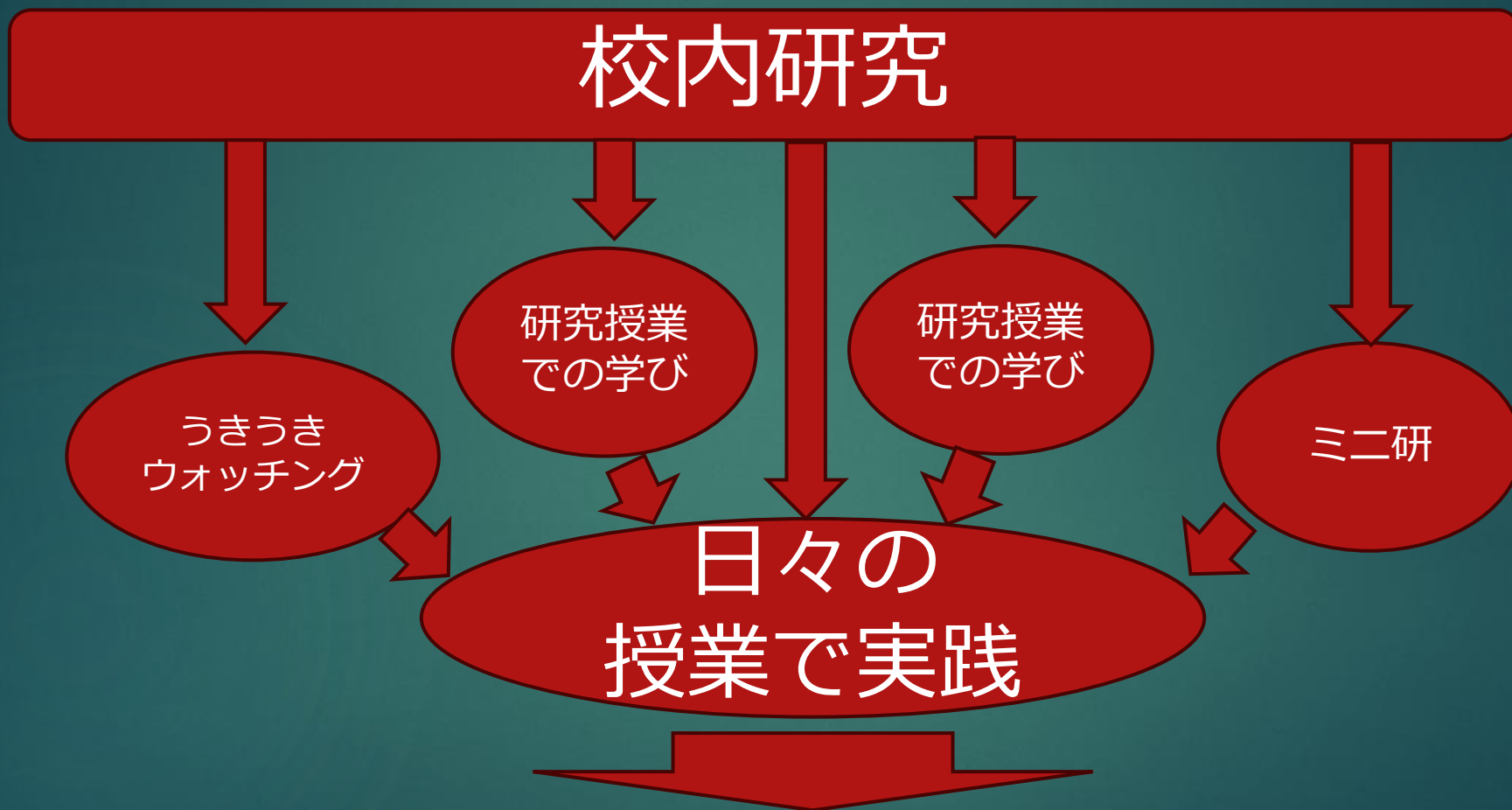
校内研究のおさえ

- ▶ 校内研究で得たことを
日々の授業に生かし、
改善を図っていく。

校内研究のおさえ

- ▶ みなさんの指導力（授業力）アップ、児童の学力アップを目指す。

校内研究イメージ



授業力アップ！ 児童の学力アップ！



みなさんで、力を高め
合っ
ていきましょう！

2. 研究テーマについて

これまでの校内研究

▶ 自己調整学習

→ 自分の学習を振り返る
ことを重点におく。

これまでの校内研究

- ▶ 個別最適な学びと協働的な学び
 - 自分の学習のしかたを選択し、自分に合った方法で学習する。
 - 仲間と共に学び合ったことを自分の学習に生かす。

今年度校内研究テーマ

▶自ら学び、ともに学び
合う上小っ子の育成

今年度校内研究テーマ

▶ ～考えを伝え合い、学びを深める授業づくり～

この部分を
研究する！

教育的課題

児童の課題・
実態

教師が課題に感
じていること



研究テーマ設定理由

▶対話的な学び

→他の子どもたち、教師との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自分の考えを広げ深める。

研究テーマ設定理由

▶ 学びを深める

→ 他者の様々な考え方に触れることで
広がり、他者の考えと自分の考えを比
べ、自分の考えが明確になったり、自
分の考えが変容したり、新しい観点を
得たりすることである。

研究テーマ設定理由

▶ 児童の実態

→考えを交流することに課題が見られる。（交流から学びを得ていない。）

研究テーマ設定理由

- ▶先生方が感じていること
 - 伝える力が低い。
 - 交流の目的、視点に課題

研究内容（方向性）

- ▶ 問いのもたせ方
- ▶ 対話場面の設定、対話のしかた
- ▶ 振り返りの充実

研究内容（方向性）

▶ 問いのもたせ方

→ 問いをもつことで、進んで考えることにつながり、対話を活性化させていきたい。

研究内容（方向性）

▶対話場面の設定

→どういう対話をさせたいか
明確にし、効果的な対話ができるようになることを目指す。

研究内容（方向性）

▶対話のしかた

→話し方、聞き方、聞き返す、共通点、相違点を見つけるなど、対話の方法を提示し、進んで対話できることを目指す。

研究内容（方向性）

▶ 振り返りの充実

→ 対話から学んだことを整理
することを通して、深い学び
につなげることを目指す。

【学校教育目標】

まなぶ子 かかわる子 つくる子

【令和7年度 重点目標】

「わかった！できた！をその先へ」

～子どもたちを主人公とした授業づくりを通して～

【令和7年度 研究主題】

自ら学び、ともに学び合う上小っ子の育成
～考えを伝え合い、学びを深める授業づくり～

【研究内容①】

問いのもたせ方

- ・主体的に学習を進めるために、どのような問いがよいか考える。

【研究内容②】

対話場面の設定
対話のしかた

- ・児童が進んで対話をするために意図的に対話場面を設定する。
- ・対話の視点をもたせ、どのようにさせるのかを考える。

【研究内容③】

振り返りの充実

- ・自分の学びを整理し、次の学びに生かせる振り返りのしかたを考える。

【研究方法①】

授業研究・分析

【研究方法②】

児童アンケート実施・分析



少しみなさんで
対話してみましよう。

3. 校内研究の進め方

公開授業について

- ▶ 実践する教科はブロックで自由に決める。
- ▶ 単元を見通した計画を立てる。
- ▶ 指導案は事前にブロックで検討し、事後に評価・分析を行う。
- ▶ ブロック内でⅠ期、Ⅱ期の授業者を決める。
Ⅰ期とⅡ期で教科が異なっても構わない。

公開授業について

I 期研：6月24日～7月22日

（指導主事訪問：7月4日）

II 期研：11月21日

（町教研大会：11月21日）

いつでもウォッチング

- ▶ 他の先生方の実践を見に行く取組。
- ▶ 空き時間等を利用して行う。
- ▶ 45分間参観しなくてもOK。
- ▶ 自分の実践を見てほしい方は、先生方に周知して、見に来てもらってもOK。

いつでもウォッチング

- ▶ 他の先生の授業を見て、刺激をもらったり、技術をぬすんだりすることが最大の目的！

ミニ研について

- ▶ ICT研修
- ▶ 道徳研修
- ▶ 特別支援関係
- ▶ お悩み相談会

など

実技研について

- ▶ 毎年、夏季休業の最終日を利用して実施する。
- ▶ ミニ研よりも少し長めに設定し、実技を中心にみなさんで学びを深められればと考えている。